

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201247		
法人名	株式会社ケア・グループ		
事業所名	グループホーム井野の家		
所在地	群馬県高崎市井野町860		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成27年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境の下で、入浴・排泄・食事・その他日常生活のケア及び機能訓練を行うことによって利用者が自立した日常生活を送れるように支援をしています。 身体状況に応じて日常生活が送れるように必要な機能の回復、または減退を防止する為の訓練を実施しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>健康な身体づくりは食事が重要と考え、食事に力を入れている。調理専門職員3名が利用者の好み聞いて、法人グループの作成した献立を基に、地元の無農薬米・事業所の菜園で収穫した野菜や事業所で漬けた梅干等を加えて提供している。提供にあたっては、普通食・体調に合わせた刻み食・味がわかるよう一品ずつミキサー食にして、瀬戸物の食器に盛り付けている。また、食堂からホールまでの歩行訓練、皆でたのしむゲーム、折り紙、歌、塗り絵等を利用者が楽しめるように支援し、身体機能の維持に努めている。毎月の「お便り」には、利用者の生活の様子、受診時時の健康状況を記載し、行事写真等を同封して家族に郵送して、家族との信頼関係を構築している。職員は理念を基に利用者へ優しくコミュニケーションをとり、利用者が自分らしく自由な暮らしが出来る支援に日々取り組みをしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員が事業所の理念を理解し、日々の業務につなげられている。	平成14年の開設時に、代表者が作成し理念「人格尊重の介護、高齢者同士が自由に自分らしく生きる、等」を掲げている。朝の申し送り時に唱和し、会議時に介護を振り返り話し合っている。職員は理念を共有し、利用者が笑顔の絶えない、安心出来る生活の支援に、日々取り組んでいる。	現在の地域や利用者のニーズ、事業所の状況の変化等に伴い、全職員で開設以来の理念について見直しの話し合いを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や広報などから地域の情報を得て交流に活かしてしている。	散歩時には近所の方と会話をしたり、子ども達が事業所の庭に昆虫採集に来たり、事業所の花火大会では子ども達と一緒に楽しんだりしている。地域の長寿センターからのエレクーン寄贈や傾聴ボランティアの来訪、大学生ボランティアの受け入れ、見学者の訪問等、地域の方との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー研修やボランティアの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族や市役所職員、民生委員の方にも参加をしていただき意見や情報の交換をしている。	2ヶ月毎の運営推進会議には、利用者・家族3組が交替で会議メンバーに加わり、利用者状況、行事報告、評価結果、介護保険の改正等を話し合っている。家族から受診状況を知りたいとの意見があり、即実行されている。また、民生委員から協力や地域の情報等があり、サービスに活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議や変更事項等の連絡を取り、運営推進会議等で実情やサービス内容の情報を伝達している。	介護保険の更新で市に赴いたり、イベント情報、書類の通知の確認や空きベッド情報の問い合わせ等は電話で情報交換したりして、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながる具体的な行為を正しく理解しケアに取り組んでいる。	管理者は身体拘束についての研修を受講し、報告している。拘束を必要とする方はおらず、帰宅願望や不穏状態になる前に利用者の話を良く聞いて、行動制限は行わず、外出に職員が同行している。玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について調べ、現場職員間で情報の共有をし、お互いの行動に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しての知識を理解し、利用者または家族と話し合い、適切なアドバイスができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、利用者や家族からの質問に十分な説明を行い理解・納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケート箱を設置したり、運営推進会議を2ヶ月に1度行い家族等の意見を聞き、運営に反映させている。	玄関に、意見箱の設置をしている。2ヶ月毎の運営推進会議と同日に家族会が開かれ、利用者、家族が出席している。利用者の受診状況を知りたいとの家族の要望に、「お便り」に往診結果のお知らせを毎月報告し応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場からの意見や改善点については管理者を通して代表者に報告をしている。	毎月の職員会議は、代表者・管理者・全職員が出席し、提案や備品購入等を話し合っている。意見が出しやすい職場であり、介護の試行を実践したり、午後の時間帯であった外出行事を午前中に変更をしたり等職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修に参加し、職員会議等で研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加を促し、同業者との交流を深め、スキルやサービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの不安や要望を聴き、職員間で相談をし、希望に沿ったケアの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からのケアの希望や不安の話を聴きながらコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時やサービス内容の変更時にはその時必要としている事が何であるかを検討し、サービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護のみにとらわれずに個人のこだわりや生活習慣を尊重し、理解をし、共に暮らすもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と本人に必要な物品やケアの相談をしたり、面会時に会話をする機会を設けたりし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時に会話ができる環境の提供や、家族と相談をし外出する機会を設ける等をし、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	知人や友人の来訪時にお茶や菓子を提供したり、話し易い食堂や居室に案内したりして、気持ちよく過ごせるよう雰囲気づくりに努めている。また、法事、自宅に外泊、美容院での髪染め等の希望に、家族の協力を得て行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内で利用者全員が参加できるレクリエーションや行事を行い交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も介護支援の相談や家族の精神的ケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネージャーとヘルパーでアセスメントを行い、家族からも意見を聞きケアプランに取り入れている。	職員は、朝、1日の予定を説明しながら、レクリエーションの参加の有無や希望を聞いた後、表情より利用者の体調を把握したりして、職員間で共有している。意思表示されない方は、家族からの情報を検討して対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や生活習慣・生活環境を聞き、これまでの暮らしやサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りやケース記録・バイタルのチェックシート等から、利用者一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議時にカンファレンスを行い、それぞれの立場の意見や家族の要望・往診時の情報等を確認し、それらをもとにケアプランを作成している。状態に変化があればその都度見直しをしている。	本人・家族の意見を聞き、必要な関係者・職員の情報等を毎月のカンファレンスで話し合い、長期6ヶ月・短期3ヶ月目標を設定し、介護計画を作成している。計画は、3ヶ月の更新を基本に、3ヶ月毎のモニタリングを行い見直しをしている。	毎月モニタリングを行い、早期に変化を捉え、臨機応変の対応が出来て、現状に即した介護計画作成に繋がれるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者一人ひとりの日々の介護記録や健康状態の記録をとり、情報を共有している。それらの記録をカンファレンスや往診時にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応えられるよう本人や家族と話し合い、既存の物に捉われない柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所周辺の環境を把握し、地域行事や公共施設(公園等)の利用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族から医療機関利用の理解を得てから受診している。 受診後に家族へ報告をしている。	入居時に希望を聞き、協力医を説明し、協力医や病院の医師がかかりつけとなり、毎月1回往診がある。専門医の受診状況等の報告を毎月のお便りに記載し、家族に郵送している。緊急時の対応には、迅速に対応できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者個々のバイタル値の把握と日常の状態の変化を看護職へ報告し、適切に医療機関の支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中の医療機関と情報交換や相談を行い連携をはかっている。 高崎中央病院の月1回の往診時にアドバイスを受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から職員と家族間で話し合いをし、事業所内で出来る事を説明し、家族の協力や理解をいただいている。また医療機関との連携を蜜にし、支援に取り組んでいる。	入居時に、事業所で出来得る介護は経口的に食べられる状態まで可能であることを説明し、重度化した場合は、早期に家族・主治医と話し合い、方針を共有している。また、看取りはしない方針であり、必要時に医療機関と連携し、入院対応としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故時の対応マニュアルを作成し、手順や対応について確認し、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回の消防署指導の避難訓練の他、自主訓練を実施し、非難手順を各職員が身に付けている。	年1回は消防署が立会い、夜間想定避難訓練は、避難場所・経路を確認し、消火方法を実施している。民生委員・隣宅の方等の参加もあり、夜間対応への協力も得ている。その他、3~4ヶ月毎に自主訓練を行い、防火器具・避難経路を確認し、行動が身に付くよう努めている。マニュアルや緊急連絡網を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者の人格を尊重し、言葉使いや対応に気を配っている。	利用者の人格を尊重した言葉遣いや対応を心がけて、会話時の大声はさけ、利用者の目線に合わせて腰を屈めての対応や難聴者には耳元で話している。入室時は必ず声をかけ、了解を求めたり、失禁時等さり気なく対応したり等、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、自己決定が出来る環境作りやサポートをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務に捉われず本人のペースに沿った生活をしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者自身にその日に着る服を選んでもらい、こだわりを持って生活が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所敷地内で野菜や果物を栽培し、収穫したものを皆で食べている。 食事は利用者と同じ物を職員も一緒に食べている。	調理担当の職員が3人おり、利用者の好みを採り入れた献立を作り、食材は地元の無農薬米、事業所の畑で収穫した野菜・果物等も食材に加え、調理している。味が解るよう1品ずつミキサーにかけ、体調に合わせた食事を提供し、ケーキや蕎麦等を一緒に作り、食事やおやつを一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し把握することで、個々に適した形態や量の物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、口腔状態を把握し、ADLを生かした口腔ケアを本人にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、職員からの声かけ・誘導・見守り・一部介助等、一人ひとりに合った支援を行っている。	排泄チェック表より、一人ひとりの排泄パターンを把握、表情や態度から状況を察知し、早めに声をかけトイレでの排泄の自立支援をしている。トイレから遠い部屋の場合や希望にて、夜間ポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心とした食事の提供と、体操や歩行練習・身体を使ったレクリエーション等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各利用者と事前の相談時に都合を確認し、当日の入浴の順番や時間を決めている。個々の希望やタイミングを考慮しローテーションを組んでいる。	1日3人程の午前中の中の入浴を支援し、湯船に浸かり会話して、湯上りにはボカリスエットを飲むなど、ゆっくりとした楽しい入浴を支援している。入浴拒否の方はいないが、入浴日や同性介助の希望及びマッサージを受ける前に入浴をしたい等本人と話し合っ対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド上の環境整備と居室内の温度管理をし、いつでも睡眠や休息がとれる状態を保持している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が各利用者の薬の作用や目的を理解し服用の支援をしている。また服用後の状態を観察し、記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んでいただいたり、紙のゴミ入れを作っていたりしている。 外出行事の企画を立て楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望時に沿って外出が出来るよう、職員や家族間で相談し、日程を組んでいます。	好天日には、散歩で会う近隣の方と雑談を交わしたり、菜園のいちじくを眺める等外に出かけている。毎月の行事では、桜やばら園の花見、梨やりんご狩り等に家族やボランティアの協力を得て外出をしている。法事や外泊等希望があれば、家族と相談して出かけるようにし、自宅の隣人宅にお茶飲みに出かける方もおり、個別に対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力に応じて金銭を所持していただき、外出時に買い物で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内の電話を使用していただいている。手紙は職員がポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や天候に合わせ、共同空間の温度や湿度・光の調節をしている。季節に合ったカレンダー作成や装飾で季節感を取り入れている。また居室やトイレ・通路等に歩行の妨げになる物は置かないようにしている。	利用者同士が談笑したり、好きな位置でテレビが見られるように、ソファーや椅子の位置を配置して、寛げる空間づくりをしている。キッチンが食堂と居間の中央に位置し、区切られるので、利用者が面会者と落ち着いて面談が出来るスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に3人掛けのソファーを2つ、2人掛けを1つ配置する他に、一人で腰掛けられる椅子とテーブルも配置し、一人または複数人でも過ごせるよう空間の配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは事業所の物であるが、生活用品は馴染みの物を自宅から持ち込んで使っている。記念写真やレクリエーションで作成した作品を飾る等、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	居室には、愛用の家具・仏壇・家族の写真を持ち込み、好みの洋服や帽子がハンガーポールに掛けられ、自宅の一室のように設えている。本立てに愛読書が並べられ、読書好きな方は日々充実して過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に手摺りを設置し、車椅子や歩行器でも入れるスペースを確保し、安全に移動が出来るように環境を整えている。		